

JCHO 薬剤師レジデントプログラム

ポリバレントファーマシスト
育成研修プログラム

Ver1.0

令和 7 年 2 月作成

1. 名称

JCHO ポリバレントファーマシスト育成研修プログラム

＜ポリバレント（polyvalent）とは＞

化学用語で「多価」を意味し、病院薬剤師でいうと、広い視野と知識を持ち、様々な場面における課題解決能力の高い人材を意味する。

2. 研修理念・基本方針

＜理念＞

急性期から慢性期において、効果的な薬物療法支援やチーム医療の推進、さらに地域医療に貢献できる病院薬剤師を育成する。

＜基本方針＞

- （１）患者のために徹底的に考え抜くことが出来る人材を育成する。
- （２）病院および地域の多職種と協働し、組織横断的に活躍できる人材を育成する。
- （３）広い視野と知識を持ち、いかなる場面においても活躍できる人材を育成する。

3. プログラムの概要

【対 象】新卒採用者

【期 間】１～２年

（１）PGY１：医療薬学一般コース（１年次）

病院薬剤師としての基本業務を習得するため実践的な研修を行う。

（２）PGY２：医療薬学専門コース（２年次）

基本業務の成熟度を上げ、臨床薬剤業務の専門性を高め、薬学的な介入を積極的に行う。

【実施施設】単施設または多施設（単施設で研修できない項目がある場合）

【特 色】急性期から慢性期における多様な薬剤師業務を広く経験し、きめ細かいフィードバックを受けることで、ポリバレントファーマシストに必要な基礎的能力を得る。

4. 指導体制

プログラムの管理、運営のため各施設で研修組織を構築する。役割者は研修責任者（薬剤部門長）が任命し、施設の状況に合わせ併任しても差し支えない。

（１）研修責任者（薬剤部門長）

研修プログラム全体を統括し、研修プログラムの実施の管理、研修者に対する助言、指導その他の援助を行い、研修プログラムの調整を行う。定期的に研修者と個別の面談を行い、面談の結果を踏まえ、目標達成や軌道修正について助言し、個々のキャリア形成を促す。

（２）研修管理者（副薬剤部長、主任など）

研修プログラムが円滑に実施されるように研修の管理を行う。研修者およびメンターの

精神的負担や体調管理に配慮し、必要に応じて助言やフィードバックを行う。各プログラムで定める到達目標が達成できるよう総合的な支援を行う。

(3) 研修評価者（各部門担当者）

各部門における研修の実務を担当し、研修プログラムに基づき実践できているか評価を行う。研修者のプログラム実施に問題が生じた場合、研修管理者と対応を検討したうえで研修責任者へ相談、報告する。

(4) メンター（研修責任者が指名）

研修者の研修およびメンタル面を含めたサポートを行う。メンターは月に1回程度、研修者と面談を行う。研修者の相談相手はメンターに限定するものではない。相談内容については、プライバシーに十分配慮し対応する。

5. プログラム到達目標の達成度評価

(1) 到達度の評価方法・到達度

<到達度記録・評価シート>

大項目	小項目	目標到達度	自己評価			指導者評価		
			前期	中期	後期	前期	中期	最終 (後期)
			/	/	/	/	/	/
内服外用調剤	処方箋の記載事項（医薬品名、用法、用量等）が適切であるか確認できる	5						
	薬歴、診療録、医薬品の情報から処方が妥当であるか判断できる	4						
	錠剤の粉碎およびカプセル剤の開封、及び簡易懸濁の可否を判断し、実践できる	5						

<到達度の評価方法>

- ・習得期間内の前・中・後期で、下記の5段階評価で自己評価を行う。
- ・未習得の項目は空欄となる。
- ・目標到達度とは、習得期間終了時に期待される到達度である。

※5段階評価だが、最高到達度は項目により異なる。

<到達度>

1. 観察・聴講した（概要が分かる）
2. 説明できる（理解している）
3. 補助的に行うことができる（指示の元動ける）
4. 1人で基本的なことができる（監督下にて基本的な業務が遂行できる）
5. 1人で様々なことができる（一通りの業務を1人で適切に遂行できる）

(2) 自己評価

項目ごとに5段階で自己評価を定期的（原則年3回）に行い、評価票に記載する。また、介入した症例、プレアボイド報告・副作用報告等を記録し、自らの進捗状況を把握した上で自己評価を行う。プレアボイド報告は日本病院薬剤師会の様式（プレアボイド報告システム）、

副作用報告は PMDA の様式（医薬品安全性情報報告書）を使用する。

（３）研修評価者による評価

自己評価に基づき、各項目における到達度の確認を担当した指導者（複数名で指導した場合、到達度に関するミーティング等を開催する）が行う。項目ごとに 5 段階で評価を定期的に（原則年 2 回）行い、評価表に記載する。

（４）研修責任者（薬剤部門長）による評価

研修責任者は、研修者と個別面談を年 3 回（実施時期目安：4-5 月、9-10 月、2-3 月）行い、各研修者の研修過程、研修到達度を把握する。面談の結果を踏まえ、5 段階で総合評価を行い、研修責任者評価表に記載する。研修責任者は面談結果を踏まえ、研修者に目標達成や軌道修正について助言し、個々のキャリア形成を促す。期首・期中・期末面談を行うことでよしとするのではなく、定期的に対話の機会を設け、信頼関係を醸成するとともに、研修者の状況を把握したり、相談に応じたり、成長を促していくための指導・助言を行う。

6. 研修の中断・再開

研修の中断とは採用期間の途中で研修を中止することを言い、下記のような正当な理由がある場合、研修責任者、研修管理者が十分な協議を行ったうえで決定する。なお、研修中断の理由がなくなり、研修者から研修再開の希望があった場合、研修組織で検討を行い、研修を再開することができる。

- ・研修者が薬剤師としての適性を欠き、薬剤部職員による繰り返しの指導・教育によってもなお改善が不可能と研修責任者が判断した場合
- ・妊娠、出産、育児、傷病、留学、研究等理由により、長期にわたり研修を休止する場合
- ・その他、正当な理由がある場合

7. 研修スケジュール

(1). PGY1：医療薬学一般コース（1年次研修）

1年目（PGY1：医療薬学一般コース）

		4月5月6月7月8月9月10月11月12月1月2月3月												
研修部門	配属先 (2～3か月ごと)	オリ エン テー シ ョ ン	調剤業務・薬品管理・DI・無菌調製・がん化学療法・院内製剤											
	患者安全：医療安全・医薬品安全関連インシデント・感染制御・在宅医療・地域連携													
研修課題	症例報告		病棟業務*・外来・チーム医療・手術室 *選択（TDM、透析、ICU、HCU、CCU、小児、産婦、精神、治験等）											
	学術・研修		症例報告*（月1例程度） *ブレアボイド報告および在宅1例を含む											
研修評価	面談	新人研修受講（日本病院薬剤師会、各都道府県病院薬剤師会）						研修受講（日本病院薬剤師会病院講習会等）、関連学会参加（日本医療薬学会、日本病院薬剤師会、JCHO地域医療総合医学会等）				PGY1 報告		
	評価	PGY1 研修責任者面談						PGY1 研修責任者面談				PGY1 研修責任者面談		
		自己評価・指導者評価												
		4月5月6月7月8月9月10月11月12月1月2月3月												

(2). PGY2：医療薬学専門コース（2年次研修）

2年目（PGY2：医療薬学専門コース）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研修部門	配属先（2ヶ月ごと）	調剤業務・薬品管理・DI・無菌調製・がん化学療法・院内製剤											
		患者安全：医療安全・医薬品安全関連インシデント・感染制御・在宅医療・地域連携											
		病棟業務＊・外来・チーム医療（希望選択重点方式） ＊選択（TDM、透析、ICU、HCU、CCU、小児、産婦、精神、治験等）											
研修課題	症例報告	症例報告＊（月1例程度） ＊ブレアボイド報告および在宅1例を含む											
	学術・研修	研修受講（日本病院薬剤師会病院関連講習会等） 関連学会への参加・発表（日本医療薬学会、日本病院薬剤師会、JCHO地域医療総合医学会等）											PGY2 報告
研修評価	面談	PGY2 研修責任者面談					PGY2 研修責任者面談					PGY2 研修責任者面談	
	評価	自己評価・指導者評価											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

8. 研修目標・到達度記録・評価シート

(1) プロフェッショナリズムの養成

到達度記録・評価シート プロフェッショナリズムの養成								
研修目標：医療人として生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して社会に貢献する姿勢を身につける。								
<到達度の評価方法> ・習得期間内の前・中・後期で、右記の5段階評価で自己評価を行ってください ・未習得の項目は空欄となります ・目標到達度とは、習得期間終了時に期待される到達度です			<到達度> 1. 観察・聴講した（概要が分かる） 2. 説明できる（理解している） 3. 補助的に行うことができる（指示の元動ける） 4. 1人で基本的なことができる（監督下にて基本的な業務が遂行できる） 5. 1人で様々なことができる（一通りの業務を1人で適切に遂行できる）					
大項目	小項目	目標到達度	自己評価			指導者評価		
			前期	中期	後期	前期	中期	最終 (後期)
			/	/	/	/	/	/
社会的使命と 公衆衛生への 寄与	薬剤師としての義務及び法令を理解し、遵守している	4						
	常に医療人としてのふさわしい、身だしなみ、言葉遣い、挨拶ができる	5						
	患者の個人情報を適切に取り扱うことができる	5						
利他的な態度	患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重できる	4						
	関係者と相互理解を図り、信頼関係を構築した上で、他者の意見又は記述された文書を正しく理解し、それに対する自分の意見を効果的な説明方法や手段を用いて明確に表現できる	4						
人間性の尊重	患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接することができる	4						
自ら高める姿勢	自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努めている	4						

自己評価（自信がついたところ、今後の目標等について）		
前期		
中期		
後期		

評価者からのフィードバック		評価者
前期		
中期		
後期（最終）		

研修責任者 確認印

(2) 調剤業務

到達度記録・評価シート 調剤業務								
研修目標：個別化医療を実現するための調剤業務の遂行とそれに必要な知識とスキルを習得する。								
<到達度の評価方法> ・習得期間内の前・中・後期で、右記の5段階評価で自己評価を行ってください ・未習得の項目は空欄となります ・目標到達度とは、習得期間終了時に期待される到達度です		<到達度> 1. 観察・聴講した（概要が分かる） 2. 説明できる（理解している） 3. 補助的に行うことができる（指示の元動ける） 4. 1人で基本的なことができる（監督下にて基本的な業務が遂行できる） 5. 1人で様々なことができる（一通りの業務を1人で適切に遂行できる）						
大項目	小項目	目標到達度	自己評価			指導者評価		
			前期	中期	後期	前期	中期	最終 (後期)
			/	/	/	/	/	/
内服外用調剤	処方箋の記載事項（医薬品名、用法、用量等）が適切であるか確認できる	5						
	薬歴、診療録、医薬品の情報から処方が妥当であるか判断できる	4						
	錠剤の粉碎およびカプセル剤の開封、及び簡易懸濁の可否を判断し、実践できる	5						
	内服計数調剤が実践できる	5						
	一包化調剤の必要性を判断し、実践できる	5						
	散剤の調剤が実践できる	5						
	外用剤の調剤が実践できる	5						
	水剤の調剤が実践できる	5						
	吸入器具等の取り扱い方を説明できる	2						
	麻薬の調剤が実践できる	5						
	調剤の鑑査が実践できる	5						
注射調剤	処方箋の記載事項（医薬品名、用法、用量等）が適切であるか確認できる	5						
	薬歴、診療録、医薬品の情報から処方が妥当であるか判断できる	4						
	注射調剤が実践できる	5						
	特定生物由来製品の調剤が実践できる	5						
	麻薬の調剤が実践できる	5						
	配合変化の回避、工夫を必要とする医薬品を説明できる	2						
	注射薬の調製後の安定性について説明できる	2						
	自己注射、インスリン器具等の取り扱い方を説明できる	2						
	注射の鑑査が実践できる	5						
疑義照会等	薬歴、診療録、医薬品の情報から判断し、適切に疑義照会ができる	4						
	患者情報や医薬品の情報に基づき、適切な代替処方を提案できる	4						
薬剤の保管	薬剤の保管方法を理解できる	5						
窓口対応	窓口対人業務が実践できる（院内スタッフ）	5						
	窓口対人業務が実践できる（患者）	5						

機器の取り扱い	電子カルテおよび部門システムが理解できる	5						
	電子カルテおよび部門システムが使用できる	5						
	調剤機器（秤量機、分包機など）の取り扱いができる	5						
その他	当直・夜勤対応ができる	5						
	緊急時の対応等について理解できる	5						
院内製剤	院内製剤のクラス分類について説明することができる	2						
	院内製剤の意義、品質管理、調製方法について説明することができる	2						
	調製に適した作業環境を選択することができる	5						
	調製に適した装備を装着できる	5						
	調製に必要な器材、原料を適切に選択することができる	5						
	調製記録を作成することができる	5						
	調製された薬剤の鑑査ができる	5						
	調製後の後片付けができる	5						

自己評価（自信がついたところ、今後の目標等について）	
前期	
中期	
後期	

評価者からのフィードバック		評価者
前期		
中期		
後期（最終）		

研修責任者 確認印

(3) 医薬品の供給と管理業務

到達度記録・評価シート 医薬品の供給と管理業務								
研修目標：医薬品の供給と管理体制を理解し管理業務を実践する。								
<到達度の評価方法> ・習得期間内の前・中・後期で、右記の5段階評価で自己評価を行ってください ・未習得の項目は空欄となります ・目標到達度とは、習得期間終了時に期待される到達度です			<到達度> 1. 観察・聴講した（概要が分かる） 2. 説明できる（理解している） 3. 補助的に行うことができる（指示の元動ける） 4. 1人で基本的なことができる（監督下にて基本的な業務が遂行できる） 5. 1人で様々なことができる（一通りの業務を1人で適切に遂行できる）					
大項目	小項目	目標到達度	自己評価			指導者評価		
			前期	中期	後期	前期	中期	最終 (後期)
			/	/	/	/	/	/
医薬品の供給	医薬品の流通体制が理解できる	5						
医薬品の確保	適正在庫に基づいた医薬品の発注が実践できる	5						
	医薬品の検品が実践できる	5						
	医薬品の供給不安定への対応について、製薬企業等から医薬品供給情報を入手し、使用量から在庫の消尽を推測した発注や、同種同効薬等の代替品への切替えについて提案できる	3						
	特別な管理を要する医薬品管理							
特別な管理を要する医薬品管理	麻薬の管理ができる	5						
	毒薬の管理ができる	5						
	向精神薬の管理ができる	5						
	覚せい剤原料の管理ができる	5						
	特定生物由来製品の管理ができる	5						
その他薬品等の管理	限定薬（患者・診療科等）の管理ができる	5						
	投与に必要な補助器具、説明文書等の管理ができる	5						
	院内他部署の医薬品管理ができる	5						
梱卸	医薬品の使用期限の確認、在庫量の管理を手順に従って実践できる	5						
返品、破損処理	医薬品の返品処理、破損伝票の処理を適切に実践できる	5						

自己評価（自信がついたところ、今後の目標等について）	
前期	
中期	
後期	

評価者からのフィードバック		評価者
前期		
中期		
後期（最終）		

研修責任者 確認印

(4) 医薬品情報管理業務

到達度記録・評価シート 医薬品情報管理業務								
研修目標：医薬品情報を収集・評価し、整理・加工して提供するスキルを習得する。								
<到達度の評価方法> ・習得期間内の前・中・後期で、右記の5段階評価で自己評価を行ってください ・未習得の項目は空欄となります ・目標到達度とは、習得期間終了時に期待される到達度です		<到達度> 1. 観察・聴講した（概要が分かる） 2. 説明できる（理解している） 3. 補助的に行うことができる（指示の元動ける） 4. 1人で基本的なことができる（監督下にて基本的な業務が遂行できる） 5. 1人で様々なことができる（一通りの業務を1人で適切に遂行できる）						
大項目	小項目	目標到達度	自己評価			指導者評価		
			前期	中期	後期	前期	中期	最終 (後期)
			/	/	/	/	/	/
医薬品の情報 収集・管理・加工・提供	記録を含め、質疑応答に対応できる	4						
	院内で使用可能な医薬品情報源の特徴を理解し、適切に使用できる	5						
	個別の医薬品や薬物治療に関するクリニカルエスションやエビデンスの有無について、文献の検索方法を理解し、実践することができる	4						
	医薬品情報要約（DIニュース等）を読み手が理解しやすいように作成できる	4						
採用医薬品の 承認手続き等	医薬品採用/緊急（臨時）採用の手順を説明できる	2						
	新規採用薬・採用見直しのために、複数の医薬品を評価できる	3						
	処方・注射オーダーのチェックシステム（マスタ）を作成・更新できる	3						
	未承認・適応外の医薬品・医療機器使用に関する病院内の取り決めに説明できる	2						
その他	薬剤師が実践している業務内容の評価を取りまとめることができる	3						
	薬剤師が関与する診療報酬について説明できる	2						

自己評価（自信がついたところ、今後の目標等について）	
前期	
中期	
後期	

評価者からのフィードバック		評価者
前期		
中期		
後期（最終）		

研修責任者 確認印

(5) 病棟業務

到達度記録・評価シート 病棟業務

研修目標：入院患者と直接接することにより、患者の病態に応じた服薬指導やフォローアップ、コミュニケーションのスキルを高める。薬物治療の観点からチーム医療に参加し、他職種との関わり方を学ぶとともに、薬学的見地から見解を発信する。持参薬の服薬状況等の聴取を通じた薬物治療に関する問題点（ポリファーマシー等）の抽出、服薬計画の立案、入院患者への服薬指導等を通して薬学的知見に基づく積極的な介入や提案を実践する。退院後の適切な薬物治療の継続のため、退院時カンファレンスへの参加、情報提供書の作成・提供等により、地域医療（多職種）との連携を実践する。

＜到達度の評価方法＞

- ・習得期間内の前・中・後期で、右記の5段階評価で自己評価を行ってください
- ・未習得の項目は空欄となります
- ・目標到達度とは、習得期間終了時に期待される到達度です

＜到達度＞

1. 観察・聴講した（概要が分かる）
2. 説明できる（理解している）
3. 補助的に行うことができる（指示の元動ける）
4. 1人で基本的なことができる（監督下にて基本的な業務が遂行できる）
5. 1人で様々なことができる（一通りの業務を1人で適切に遂行できる）

大項目	小項目	目標到達度	自己評価			指導者評価		
			前期	中期	後期	前期	中期	最終 (後期)
			/	/	/	/	/	/
態度	患者・生活者中心の医療の視点において個々に配慮した対応ができる	4						
	患者と接する上で、倫理規範を遵守し適切な姿勢で対応できる	4						
	患者、生活者と円滑にコミュニケーションができる	5						
患者情報の把握	入院前から退院後の患者の流れを理解し、説明できる	2						
	紙カルテ、電子カルテを適切に使用することができる	5						
	患者、生活者、カルテ情報などから患者情報・薬歴などを適切に得て評価できる	4						
	持参薬鑑別業務についてその意義を説明できる	2						
	代替え薬の提示を含めた持参薬鑑別表を作成できる	5						
	持参薬の服薬状況等の聴取を通じた薬物治療に関する問題点（ポリファーマシー等）を抽出し、解決策を提案できる	4						
	持参薬処方の妥当性、入院中に使用すると予測される薬剤との相互作用などから服薬計画を立案し記載できる	4						
	手術や検査時の使用薬を含め、内服薬、外用薬、注射薬の実施状況が把握できる	5						
	ハイリスク・ハイアラート薬（注：その病院において投薬エラー発生時に有害事象を及ぼす可能性が高い薬剤）の服薬説明ができる	5						
服薬指導	麻薬の服薬説明ができる	5						
	医薬品副作用被害救済制度について理解し、必要に応じて患者に情報提供できる	3						
	患者、生活者に対して薬剤管理指導業務ができる	5						

治療モニタリングと処方提案	医薬品を中心とした相互作用を確認することができる	5						
	効果と副作用をモニタリングするための項目を 列挙できる	5						
	臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を 説明できる	2						
	代表的疾患について治療ガイドライン等を参 照し、エビデンスに基づいた評価、提案ができる	4						
	処方の妥当性について評価できる	4						
	投与量の計算、流量の計算、投与時の注意 点についてベッドサイドで確認できる	4						
	様々な情報源を確認し、医師に対して処方変 更も含めた提案ができる	4						
	治療アドヒアランス向上のための提案ができる	4						
	薬物治療の効果、副作用の発現について患 者の症状や検査所見から評価ができる	4						
	中央業務、病棟業務担当者と適切に情報が 共有できる	4						
多職種との連携	入院病棟における様々な状況（急変対応 等）での業務を理解し、説明できる	2						
	入院、退院、在宅を含めた地域での連携の重 要性について説明できる	2						
	医師、看護師等と情報共有ができ、コミュニ ケーションができる	4						
	回診、カンファレンスにおいて、薬学的視点で発 言ができる	3						
	医師、看護師等と連携しながら、薬物治療上 の問題点解決のための情報を共有し、患者の 治療に貢献できる	4						
	病院内の多様な専門医療チームの活動におけ る薬剤師の役割を説明できる	2						
	退院時に薬剤管理サマリーを作成し、転院先 病院や地域薬局等との連携ができる	4						
	アレルギー症例を報告できる	4						
副作用報告 等 記録	医薬品安全性情報報告を報告できる	4						
	薬剤管理指導業務について適切な評価、記 録（SOAP形式）の記載が実践できる	4						
算定要件・そ の他	病棟薬剤業務日誌の作成ができる	4						
	医政局通知等の薬剤師関連業務について説 明できる	2						
	診療報酬上の算定要件について、それぞれに 必要な項目が列挙でき、対応ができる（薬剤 管理指導業務）	4						
	診療報酬の算定要件について説明でき、対応 できる（病棟薬剤業務）	4						

自己評価（自信がついたところ、今後の目標等について）	
前期	
中期	
後期	
評価者からのフィードバック	
前期	評価者
中期	
後期（最終）	

研修責任者 確認印

(6) 在宅訪問

到達度記録・評価シート 在宅訪問（在宅医療・介護）								
研修目標：自宅や施設で生活する患者を訪問して服薬指導や薬剤管理を行い、在宅医療や介護に関する各種支援制度や地域包括ケアシステムにおける他職種の役割を学ぶとともに、薬剤師としての役割を果たす。								
<到達度の評価方法> ・習得期間内の前・中・後期で、右記の5段階評価で自己評価を行ってください ・未習得の項目は空欄となります ・目標到達度とは、習得期間終了時に期待される到達度です		<到達度> 1. 観察・聴講した（概要が分かる） 2. 説明できる（理解している） 3. 補助的に行うことができる（指示の元動ける） 4. 1人で基本的なことができる（監督下にて基本的な業務が遂行できる） 5. 1人で様々なことができる（一通りの業務を1人で適切に遂行できる）						
大項目	小項目	目標到達度	自己評価			指導者評価		
			前期	中期	後期	前期	中期	最終 (後期)
			/	/	/	/	/	/
在宅医療	地域の在宅医療の仕組みや在宅医療に関わる多職種の役割を説明できる	2						
	医療保険・介護保険の在宅医療に関する制度や公費制度等について理解し、説明できる	2						
	医薬品情報の収集、提供ができる	5						
	患者の状況に適した医薬品の選定、提案ができる	4						
	患者の生活様式を把握し、状況に適した調剤・服薬指導などの判断・対応ができる	4						
	患者や家族に対し、医薬品の適切な管理、保管方法を指導できる	4						
	体調（食事・排泄・睡眠・運動・認知など）を把握し、薬の影響をアセスメントできる	4						
	患者の服薬状況や効果の確認、副作用の有無などの確認ができる	4						
	医師と連携し、「診療情報提供書」の提供を受け、薬学的管理指導計画の立案ができる	4						
	患者、家族およびケアマネジャーと連携した薬学的管理指導計画を立て、他の訪問職種にも服薬に関するフォローの依頼等ができる	3						
実施した業務の内容を薬歴に適切に記録できる	4							
在宅医療の質の向上のため、退院時カンファレンスに参加し、退院後の療養上必要な薬剤に関する説明および指導を行うことができる	4							

緩和ケア・終末期への対応	在宅患者の終末期に対する薬物治療・緩和ケアについて、提案を含めた医師との連携ができる	3						
	在宅で看取られる患者（老衰を含めたターミナル）およびその家族に対して、服薬管理を含め精神的にも寄り添うことができる	3						
	麻薬を含めた残薬の取り扱いについて説明できる（麻薬の安全な回収・廃棄等を含む）	4						
	退院後に在宅疼痛緩和に移行する患者の情報を医療機関と共有できる	3						

自己評価（自信がついたところ、今後の目標等について）		
前期		
中期		
後期		
評価者からのフィードバック		評価者
前期		
中期		
後期（最終）		

研修責任者 確認印

(7) 医療安全

到達度記録・評価シート 医療安全								
研修目標：医療の質を担保し、患者及び医療従事者にとって安全な医療を提供できる。特に、医薬品の安全管理体制の確保のため、薬剤師として主体的な役割を果たす。								
<到達度の評価方法> ・習得期間内の前・中・後期で、右記の5段階評価で自己評価を行ってください ・未習得の項目は空欄となります ・目標到達度とは、習得期間終了時に期待される到達度です			<到達度> 1. 観察・聴講した（概要が分かる） 2. 説明できる（理解している） 3. 補助的に行うことができる（指示の元動ける） 4. 1人で基本的なことができる（監督下にて基本的な業務が遂行できる） 5. 1人で様々なことができる（一通りの業務を1人で適切に遂行できる）					
大項目	小項目	目標到達度	自己評価			指導者評価		
			前期	中期	後期	前期	中期	最終 (後期)
			/	/	/	/	/	/
	患者の安全を最優先に考えることができる	5						
	患者が医療に参加する重要性を理解できる	5						
	医薬品および医薬品以外に関連した安全管理体制、マニュアル等を確認し、その仕組みに沿って行動できる	5						
	インシデントを未然に回避するために、環境整備や医療技術の活用等の業務の工夫ができる	4						
	医療安全担当者（医薬品安全管理責任者、医療安全管理者、リスクマネージャー等）の役割について説明できる	2						
	インシデント発生時に適切な対応（報告・連絡・相談等）ができ、書式に準じて記録を作成できる	5						
	自己の健康管理をすることができる	5						

自己評価（自信がついたところ、今後の目標等について）	
前期	
中期	
後期	

評価者からのフィードバック		評価者
前期		
中期		
後期（最終）		

研修責任者
確認印

--

(8) 感染制御

到達度記録・評価シート 感染制御								
研修目標：医療現場に応じて感染症を発生させない環境整備や感染予防を実践する。感染症発生時（新興、再興感染症を含む）における感染拡大防止のための対応を図るなどの感染制御に努める。								
<到達度の評価方法> ・習得期間内の前・中・後期で、右記の5段階評価で自己評価を行ってください ・未習得の項目は空欄となります ・目標到達度とは、習得期間終了時に期待される到達度です			<到達度> 1. 観察・聴講した（概要が分かる） 2. 説明できる（理解している） 3. 補助的に行うことができる（指示の元動ける） 4. 1人で基本的なことができる（監督下にて基本的な業務が遂行できる） 5. 1人で様々なことができる（一通りの業務を1人で適切に遂行できる）					
大項目	小項目	到達度	自己評価			指導者評価		
			前期	中期	後期	前期	中期	最終 (後期)
			/	/	/	/	/	/
微生物に対する基本的な知識	細菌、真菌、ウイルスの構造と分類について説明できる	2						
	医療関連感染に関わる代表的な細菌菌種について説明できる	2						
	医療関連感染対策上、留意すべきウイルス感染症について説明できる	2						
抗菌薬に関する基本的な知識	各抗微生物薬について薬理作用、薬物動態、PK/PD、副作用を説明できる	2						
	腎機能低下患者における薬物動態と用量調節が必要となる薬剤について説明できる	2						
感染症治療の知識	各感染症に対して推定される原因微生物および推奨される治療薬について説明できる	2						
	当院の感染症マニュアルについて説明できる	2						
術後感染予防について	手術部位感染の代表的な起因菌と推奨される術後期予防的抗菌薬の種類と投与のタイミング、投与量について説明できる	2						
消毒薬について	各消毒薬の特徴について説明できる	2						
	必要に応じて消毒薬の選択方法や使用方法の指導ができる	5						
針刺し事故等の対応	針刺し事故時における初期対応を説明できる	2						

感染制御の実践	標準予防策（手指衛生、個人防護具）を適切に使用できる	5						
	感染症発生時の初期対応を説明できる	2						
	感染症症例において適切な抗菌薬の選択ができる	4						
	個々の患者の治療歴や薬歴を十分に踏まえて感染症治療の安全性を確保するとともに、患者に対する適切な服薬指導ならびに情報提供が実践できる	4						
	腎機能あるいは血液学的検査などの指標に基づいて、抗微生物薬の種類、投与量、投与期間などの妥当性を評価し、必要に応じて医師に変更を提案できる	4						
	院内感染に関するチーム活動（ICT、AST）に参加し、チームの役割を理解するとともに、薬剤師としてチームに貢献できる	4						

自己評価（自信がついたところ、今後の目標等について）	
前期	
中期	
後期	

評価者からのフィードバック		評価者
前期		
中期		
後期（最終）		

研修責任者 確認印

(9) 地域連携

到達度記録・評価シート 地域連携								
研修目標：病院と薬局の連携や地域の医師、看護師等との多職種連携等、地域連携の必要性を理解し、地域における患者中心の医療の実現に努める。								
<到達度の評価方法> ・習得期間内の前・中・後期で、右記の5段階評価で自己評価を行ってください ・未習得の項目は空欄となります ・目標到達度とは、習得期間終了時に期待される到達度です		<到達度> 1. 観察・聴講した（概要が分かる） 2. 説明できる（理解している） 3. 補助的に行うことができる（指示の元動ける） 4. 1人で基本的なことができる（監督下にて基本的な業務が遂行できる） 5. 1人で様々なことができる（一通りの業務を1人で適切に遂行できる）						
大項目	小項目	目標到達度	自己評価			指導者評価		
			前期	中期	後期	前期	中期	最終 (後期)
			/	/	/	/	/	/
	地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制(地域包括ケア)およびその意義について説明できる	2						
施設間連携	自施設と病床機能・規模の異なる他施設と患者情報の共有を行うこと等において連携できる	4						
	地域医療者を含む研修会等に参加し、他施設の医療従事者へ適切な医療を提供するための情報交換会を実施できる	3						
	患者情報以外で他施設と業務連携を行うことができる	3						
様々な施設での薬物療法の理解と多職種との共有	在宅期（主に診療所や調剤薬局）での適切な薬物治療を理解し、他職種と共有できる	3						
	慢性期（主に中小病院の療養病床）での適切な薬物治療を理解し、他職種と共有できる	3						
	回復期（主に中小病院の療養病床）での適切な薬物治療を理解し、他職種と共有できる	3						
	急性期（主に大規模病院や中小病院の一般病床）での適切な薬物治療を理解し、他職種と共有できる	3						
	高度急性期（主に大学病院や大規模病院）での適切な薬物治療を理解し、他職種と共有できる	3						
	高齢者介護施設（特別養護老人ホーム・介護医療院など）の従事者から見た適切な薬物治療の視点を共有できる	3						
他職種の薬物療法の視点の理解と共有	入退院支援看護師/医療ソーシャルワーカーから見た適切な薬物治療の視点を共有できる	3						
	ケアマネジャーから見た適切な薬物治療の視点を共有できる	3						
		3						

薬薬連携	薬局から報告される服薬情報提供書（トレーニングレポート）を踏まえた対応ができる	5						
	薬局からの疑義照会に対応ができる	5						
健康サポート	地域住民の健康維持・増進に関する相談に対応できる	5						
その他	災害時の薬剤師の役割について説明できる	2						

自己評価（自信がついたところ、今後の目標等について）	
前期	
中期	
後期	

評価者からのフィードバック		評価者
前期		
中期		
後期（最終）		

研修責任者 確認印

(10) 無菌調製

到達度記録・評価シート 無菌調製								
研修目標：適切な無菌的混合調製を理解し実践するスキルを身に付ける。								
<到達度の評価方法> ・習得期間内の前・中・後期で、右記の5段階評価で自己評価を行ってください ・未習得の項目は空欄となります ・目標到達度とは、習得期間終了時に期待される到達度です			<到達度> 1. 観察・聴講した（概要が分かる） 2. 説明できる（理解している） 3. 補助的に行うことができる（指示の元動ける） 4. 1人で基本的なことができる（監督下にて基本的な業務が遂行できる） 5. 1人で様々なことができる（一通りの業務を1人で適切に遂行できる）					
大項目	小項目	目標到達度	自己評価			指導者評価		
			前期	中期	後期	前期	中期	最終 (後期)
			/	/	/	/	/	/
	無菌的混合調製の意義、管理、調製方法、輸液処方内容及び配合変化について説明することができる	2						
調製の実践	無菌的混合調製に必要な準備ができる	5						
	無菌的混合調製前の監査ができる	5						
	無菌的混合調製作業用（無塵衣）の着用ができる	5						
	クリーンベンチの操作ができる	5						
	無菌的混合調製ができる	5						
	無菌的混合調製済鑑査ができる	5						
	無菌的混合調製後の後片付けができる	5						

自己評価（自信がついたところ、今後の目標等について）	
前期	
中期	
後期	

評価者からのフィードバック		評価者
前期		
中期		
後期（最終）		

研修責任者 確認印

(11) がん化学療法

到達度記録・評価シート がん化学療法								
研修目標：がん化学療法のレジメン管理や抗がん剤の調製、副作用や疼痛評価、支持療法薬の提案、投与計画への参画など基本的技能・知識を身に付ける。								
<到達度の評価方法> ・習得期間内の前・中・後期で、右記の5段階評価で自己評価を行ってください ・未習得の項目は空欄となります ・目標到達度とは、習得期間終了時に期待される到達度です		<到達度> 1. 観察・聴講した（概要が分かる） 2. 説明できる（理解している） 3. 補助的に行うことができる（指示の元動ける） 4. 1人で基本的なことができる（監督下にて基本的な業務が遂行できる） 5. 1人で様々なことができる（一通りの業務を1人で適切に遂行できる）						
大項目	小項目	目標到達度	自己評価			指導者評価		
			前期	中期	後期	前期	中期	最終 (後期)
			/	/	/	/	/	/
標準治療レジメンの理解	各レジメンの位置づけを説明することができる (術前・術後補助化学療法、進行・再発、一次治療、二次治療など)	2						
	各レジメンについて、投与スケジュール、休薬期間、用量規制因子、投与中止基準および副作用について説明できる	2						
	標準レジメンについて上記を理解の上、監査することができる	5						
支持療法薬の理解と提案	抗がん薬によって発現する副作用について、症状、グレード、好発時期、可逆性および対応する支持療法について説明できる	2						
	必要な支持療法薬を選択し、医師へ提案することができる	3						
副作用の評価	CTCAEのグレード評価を活用し、副作用評価ができる	4						
	がん薬物療法に用いられる薬剤の特性に応じて患者の状態を適切に把握し、適切な副作用モニタリングが実践できる	4						
血管外漏出	血管外漏出時に組織障害性の強い抗がん薬を列挙できる	5						
	血管外漏出時の対応についてマニュアルを参照し答えることができる	5						
抗がん剤の調製	正確かつ安全に抗がん薬の無菌調製が実践できる	5						
	抗がん薬や調製時に生じた廃棄物についてその廃棄手順について理解し、実践できる	5						
	抗がん薬曝露対策（安全キャビネット、防護具、閉鎖式接続器具）を実践できる	5						
	抗がん剤不活性化ワイプなど暴露時の対応、無毒化する方法について説明できる	2						

がん化学療法の服薬説明	医薬品情報、治療スケジュール、副作用および投薬上の注意などを適切に説明できる	5						
	個々の患者の治療歴や薬歴を十分に踏まえて、がん薬物療法の安全性を確保するとともに、患者に対して適切な服薬指導ならびに情報提供が実践できる	5						
	患者からの相談に対応することができる	4						
抗がん薬の減量や延期の評価	抗がん薬の減量や延期の必要性について評価し、医師と協議することができる	3						
疼痛管理	疼痛緩和に用いる薬剤やその投与経路を患者の状態に応じて適切に選択し、適切な副作用モニタリングが実践できる	4						
	腫瘍性疼痛を客観的指標（NRS、FaceScale等）により評価することができる	4						
	必要な鎮痛薬を選択し、医師へ提案することができる	3						
チーム医療	医師や看護師などが参加するチームカンファレンスに参加し、個々の患者に応じた治療方針や患者ケアについて理解する	4						
	医師・看護師等の医療従事者からの相談に対応することができる	4						

自己評価（自信がついたところ、今後の目標等について）	
前期	
中期	
後期	

評価者からのフィードバック		評価者
前期		
中期		
後期（最終）		

研修責任者
確認印

--

(12) TDM

到達度記録・評価シート TDM								
研修目標：血中濃度測定に関する基本的知識や手順を理解し実践する。薬物特性と患者個々の状態に適した薬学的管理を理解し、指導薬剤師の指導の下、投与設計・処方提案ができる。								
<到達度の評価方法> ・習得期間内の前・中・後期で、右記の5段階評価で自己評価を行ってください ・未習得の項目は空欄となります ・目標到達度とは、習得期間終了時に期待される到達度です		<到達度> 1. 観察・聴講した（概要が分かる） 2. 説明できる（理解している） 3. 補助的に行うことができる（指示の元動ける） 4. 1人で基本的なことができる（監督下にて基本的な業務が遂行できる） 5. 1人で様々なことができる（一通りの業務を1人で適切に遂行できる）						
大項目	小項目	目標到達度	自己評価			指導者評価		
			前期	中期	後期	前期	中期	最終 (後期)
			/	/	/	/	/	/
TDMの知識	TDMの意義及び一般的な対象薬を理解し、自院で扱うTDM対象薬を説明できる	2						
	TDM対象薬物の動態学的特性を説明できる	2						
	自院でのTDM業務の流れ（オーダー、採血、測定、解析、治療へのフィードバックなど）を説明できる	2						
	TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる	2						
	血中濃度に影響を与える因子について例を挙げて説明できる	2						
TDMの実践	使用頻度の高いTDM対象薬剤（VCM、TEICなど）の初回投与量・維持投与量の算出・処方提案ができる	5						
	個別の患者情報（遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など）と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる	4						
	高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を考慮した薬学的管理を実践できる	4						
	肝機能・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を考慮した薬学的管理を実践できる	4						
	低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を考慮した薬学的管理を実践できる	3						

自己評価（自信がついたところ、今後の目標等について）	
前期	
中期	
後期	

評価者からのフィードバック		評価者
前期		
中期		
後期（最終）		

研修責任者 確認印

(13) 救急・ICU

到達度記録・評価シート 救急・ICU治療								
研修目標：重篤度と緊急度の高いICU・救急医療における薬物療法を習得するとともに、ICU・救急領域での薬剤師の役割を理解し実践する。								
<到達度の評価方法> ・習得期間内の前・中・後期で、右記の5段階評価で自己評価を行ってください ・未習得の項目は空欄となります ・目標到達度とは、習得期間終了時に期待される到達度です		<到達度> 1. 観察・聴講した（概要が分かる） 2. 説明できる（理解している） 3. 補助的に行うことができる（指示の元動ける） 4. 1人で基本的なことができる（監督下にて基本的な業務が遂行できる） 5. 1人で様々なことができる（一通りの業務を1人で適切に遂行できる）						
大項目	小項目	目標到達度	自己評価			指導者評価		
			前期	中期	後期	前期	中期	最終 (後期)
			/	/	/	/	/	/
知識	救急ICU入室患者の主な背景疾患を説明できる	2						
	意識レベルの評価方法と評価スケール（GCS、JCS）について説明できる	2						
	侵襲下、ストレス下における生体反応を説明できる	2						
	集中治療で用いられる機器類と使用目的を説明できる	2						
	当院の救急外来および救急ICUにおける薬剤の供給体制を説明できる	2						
	頻用されるカテコールアミンの薬理学的特徴および使い分けを説明できる	2						
	それぞれの静注用鎮静薬の薬理学的特徴および使い分けを説明できる	2						
	救急・集中治療領域で使用される静注用麻薬について、それぞれの特徴および使い分けを説明できる	2						
	中毒原因物質について症状や処置方法等の説明ができる	2						

実践	バイタルサインが正常値かどうか判別できる	4						
	BLS(Basic Life Support)の知識および手技を習得している	4						
	患者本人および家族から常用薬の使用状況について正しく聴取できる	4						
	診療情報提供書、看護サマリ等の利用可能な情報源から必要な情報を抽出し、患者の薬物療法に関する正確な情報が把握できる	4						
	必要に応じて、かかりつけ医療機関、かかりつけ薬局へ照会し、患者の薬物療法に関する正確な情報が把握できる	4						
	注射剤の配合変化について、輸液の組成や投与ルートから投与の可否を正しく判断できる	4						
	注射剤の特徴から、適切な投与ルート（末梢または中心静脈）を選択できる	4						
	多職種回診において、担当医のプレゼンテーション内容を理解できる	4						

自己評価（自信がついたところ、今後の目標等について）	
前期	
中期	
後期	

評価者からのフィードバック		評価者
前期		
中期		
後期（最終）		

研修責任者 確認印

(14) 精神科

到達度記録・評価シート 精神科								
研修目標：精神疾患に対する薬物療法を習得するとともに、精神科領域での薬剤師の役割を理解し実践する。								
<到達度の評価方法> ・習得期間内の前・中・後期で、右記の5段階評価で自己評価を行ってください ・未習得の項目は空欄となります ・目標到達度とは、習得期間終了時に期待される到達度です		<到達度> 1. 観察・聴講した（概要が分かる） 2. 説明できる（理解している） 3. 補助的に行うことができる（指示の元動ける） 4. 1人で基本的なことができる（監督下にて基本的な業務が遂行できる） 5. 1人で様々なことができる（一通りの業務を1人で適切に遂行できる）						
大項目	小項目	目標到達度	自己評価			指導者評価		
			前期	中期	後期	前期	中期	最終 (後期)
			/	/	/	/	/	/
知識	精神科に関わる職種とその役割について説明できる	2						
	代表的な疾患（統合失調症、うつ病、双極性障害、不安障害、睡眠障害、認知症等）についての疫学、診断基準、病態、検査、治療について説明できる	2						
	向精神薬の薬効薬理と副作用について説明できる	2						
実践	患者個々の生活スタイルや希望に応じ、最適な薬物療法を提案できる	3						
	各種ガイドラインに沿った標準治療が提案できる	4						
	薬物代謝能や排出能が低下した患者（肝機能あるいは腎機能の低下）における薬物動態と用量調節が必要となる薬剤について確認できる	4						
	患者や家族と適切なコミュニケーションをとることができる	3						
	DIEPSを用いて錐体外路症状の代表的な症状を評価できる	3						
	抗精神病薬・抗うつ薬・ベンゾジアゼピンについて等価換算ができる	4						
	服薬状況を正確に把握・評価し、服薬アドヒアランスを高く維持するための患者教育について他職種と協議して効果的に行うことができる	3						

自己評価（自信がついたところ、今後の目標等について）	
前期	
中期	
後期	

評価者からのフィードバック		評価者
前期		
中期		
後期（最終）		

研修責任者 確認印

(15) 小児・産婦人科

到達度記録・評価シート 小児・産婦人科							
研修目標：スペシャルボピュレーションとしての小児・産婦人科の薬物療法を習得するとともに、小児・産婦人科領域での薬剤師の役割を理解し実践する。							
<到達度の評価方法> ・習得期間内の前・中・後期で、右記の5段階評価で自己評価を行ってください ・未習得の項目は空欄となります ・目標到達度とは、習得期間終了時に期待される到達度です		<到達度> 1. 観察・聴講した（概要が分かる） 2. 説明できる（理解している） 3. 補助的に行うことができる（指示の元動ける） 4. 1人で基本的なことができる（監督下にて基本的な業務が遂行できる） 5. 1人で様々なことができる（一通りの業務を1人で適切に遂行できる）					
大項目	小項目	目標到達度	自己評価			指導者評価	
			前期	中期	後期	前期	中期
			／	／	／	／	最終（後期）
産婦人科	妊娠・出産の過程、妊婦の生理学的な変化、ホルモンの働きについて説明できる	2					
	胎児・新生児の器官形成・発育、新生児合併症、新生児の生理・代謝機能について説明できる	2					
	妊婦が罹患する可能性のある代表的な疾患（悪阻、切迫早産、妊娠高血圧、糖尿病など）について、疫学、代表的な検査、一般的な治療法、およびそれら疾患自体が妊娠と胎児に与える影響について説明できる	2					
	妊娠・授乳期に使用される代表的な薬剤について、薬理作用、体内動態について説明できる	2					
	妊婦に注意を要する薬剤について列挙できる	2					
	不妊治療に使用する薬剤について説明できる	2					
	母乳哺育の意義と母乳への薬剤移行の考え方を知り、助言できる	4					
	代表的な先天奇形の疫学、原因、治療、経過について説明できる	2					
	妊婦および授乳婦に対する薬物療法に関する情報収集を行うことができる	4					
	服薬に関連したカウンセリングを提供し過剰な不安から薬物療法が中断されないことがないよう、妊婦・授乳婦の薬学的支援ができる	4					

小児	小児の薬物動態の発達変化を説明できる	2						
	小児期の臨床検査値の違いを説明できる	2						
	代表的な小児疾患について理解し、その標準的な薬物療法について理解し説明できる	2						
	小児に注意を要する薬剤について列挙できる	2						
	小児剤形の必要性を理解し、問題点について説明できる	2						
	小児の基本的な薬剤使用方法について説明できる	2						
	小児の病態に配慮した薬用量と剤形・投与経路の提案ができる	4						
	保護者に対して小児医薬品の適正使用に関する助言ができる	4						
	小児に対するくすり教育や服薬指導を実践できる	4						

自己評価（自信がついたところ、今後の目標等について）		
前期		
中期		
後期		
評価者からのフィードバック		評価者
前期		
中期		
後期（最終）		

研修責任者
確認印

(16) 治験

到達度記録・評価シート 治験業務								
研修目標：CRC の役割を果たす上で必要な基礎知識を得る								
<到達度の評価方法> ・習得期間内の前・中・後期で、右記の5段階評価で自己評価を行ってください ・未習得の項目は空欄となります ・目標到達度とは、習得期間終了時に期待される到達度です			<到達度> 1. 観察・聴講した（概要が分かる） 2. 説明できる（理解している） 3. 補助的に行うことができる（指示の元動ける） 4. 1人で基本的なことができる（監督下にて基本的な業務が遂行できる） 5. 1人で様々なことができる（一通りの業務を1人で適切に遂行できる）					
大項目	小項目	目標到達度	自己評価			指導者評価		
			前期	中期	後期	前期	中期	最終 (後期)
			/	/	/	/	/	/
医薬品の臨床試験の実施の基準（GCP）	GCPの法的な位置づけを説明できる	2						
	GCPは臨床試験の模範的行動を示したものであることを説明できる	2						
	きわめて重大なGCP違反の例を説明できる	2						
	規制当局によるGCP実地調査の役割について説明できる	2						
臨床試験の実施準備	実施計画書内容を把握することができる	3						
	説明文書・同意書の作成補助を行うことができる	4						
	IRBで必要な審議資料を確認できる	3						
	治験実施体制の構築に必要な事項を説明できる	2						
被験者対応	被験者スクリーニングを実践できる	4						
	臨床研究と被験者保護の考えかたを説明できる	2						
	同意説明補助を行うことができる	3						
	スケジュール管理の方法を説明できる	2						
医師との連携	症例登録の推進策を提案できる	3						
	重篤な有害事象発生時の対応方法を説明することができる	2						
	逸脱発生時の対応方法を説明できる	2						
	責任医師が作成・保管すべき「治験に係る文書又は記録」の管理について説明できる	2						
関連部署とのコーディネーション	関連部署との連携の重要性を説明できる	2						
	治験薬管理について概略を説明できる	2						
	保険外併用療養費制度について説明できる	2						
	被験者負担軽減費について説明できる	2						

参考：CRCテキストブック第3版 医学書院

自己評価（自信がついたところ、今後の目標等について）	
前期	
中期	
後期	

評価者からのフィードバック		評価者
前期		
中期		
後期（最終）		

 研修責任者
 確認印

9. 研修責任者面談評価票

研修責任者面談 評価票	
JCHO●●●病院薬剤部	
面談実施日：____年____月____日	
研修者氏名：_____	
研修責任者：_____印	

【評価方法】	
以下5段階で評価する。	
1：極めて良くない、2：良くない、3：標準、4：優秀、5：極めて優秀	

1.総合評価	
評価：	1 2 3 4 5
2.コメント（良かった点、目標達成のため改善が必要な点など）	
JCHO 薬剤師教育研修実行委員会 第1版	

10. 症例報告書

症例報告書		
		JCHO●●病院薬剤部
		記入日： 年 月 日
研修者氏名： _____		
確認欄：研修責任者：	印	研修管理者：
	印	
症例 ()	年齢・性別 疾患・既往歴	()歳、男／女
	薬歴	
	薬剤管理指導業務 内容の要約	
1. 症例報告評価：研修評価者 以下5段階で評価する。1：極めて良くない、2：良くない、3：標準、4：優秀、5：極めて優秀 評価： 1 2 3 4 5		
2. コメント		

JCHO 薬剤師教育研修実行委員会 第1版

1 1. プレアボイド報告様式

<日本病院薬剤師会プレアボイド報告システム>

<https://preavoid-jshp.info/login>

様式1：副作用の重篤化回避

プレアボイド報告 様式1：副作用の重篤化回避

一覧画面 一時保存 印刷待ち PDFプレビュー 入力内容確認

事例登録 必須 記入例

患者背景

年齢 必須 月齢 (0歳のみ) 性別 必須 妊婦

身長 体重 入院外来 (発見時の状態) 必須

様式1：副作用の重篤化回避

1 2. 副作用報告様式

<PMDA オンライン報告受付サイト>

<https://www.pmda.go.jp/safety/reports/hcp/0002.html>

1. オンライン報告（報告受付サイト）



JCHO 薬剤師教育研修実行委員会 委員

(令和7年2月時点)

所属	職名	氏名
本部	医療・研修担当理事	山本 圭子
本部	医療部長	森 恩
本部	病院薬剤師育成担当理事(委員長)	伊藤 典子
本部	薬事専門職(座長)	片山 歳也
仙台病院	薬剤部長	茂野 健司
徳山中央病院	薬剤部長	佐藤 真也
下関医療センター	薬剤部長	吉国 健司
北海道病院	副薬剤部長	門村 将太
東京山手メディカルセンター	副薬剤部長	森本 雅子